

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2025.9.29-10.5

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

11:11 それでは尋ねますが、彼らがつまづいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。

11:12 彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょう。

11:13 そこで、異邦人であるあなたがたに言いますが、私は異邦人への使徒ですから、自分の務めを重く受けとめています。

11:14 私は何とかして自分の同胞にねたみを起こさせて、彼らのうち何人かでも救いたいのです。

11:15 もし彼らの捨てられることが世界の和解となるなら、彼らが受け入れられることは、死者の中からのいのちでなくて何でしょうか。

11:16 麦の初穂が聖なるものであれば、こねた粉もそうなのです。根が聖なるものであれば、枝もそうなのです。

11:17 枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分をともに受けているのなら、

11:18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

11:19 すると、あなたは「枝が折られたのは、私が接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。

11:20 そのとおりです。彼らは不信仰によっ

て折られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がることなく、むしろ恐れなさい。

11:21 もし神が本来の枝を惜しまなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

11:22 ですから見なさい、神のいつくしみと厳しさを。倒れた者の上にあるのは厳しさですが、あなたの上にあるのは神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り取られます。

11:23 あの人たちも、もし不信仰の中に居続けないなら、接ぎ木されます。神は、彼らを再び接ぎ木することがおできになるのです。

11:24 あなたが、本来野生であるオリーブから切り取られ、元の性質に反して、栽培されたオリーブに接ぎ木されたのであれば、本来栽培された枝であった彼らは、もっとたやすく自分の元のオリーブに接ぎ木されるはずです。

パウロは「何とかして自分の同胞にねたみを起こさせて、彼らのうち何人かでも救いたいのです。」というほど、イスラエルを愛しています。その愛を持ってとりなし折り、思索するとき彼に与えられたイメージは、オリーブの枝です。

根にあたるのはイスラエルで、彼らの不信仰によって折られてしまい、その後に異邦人がつがれたのですが、異邦人は「思い上がることなく、むしろ恐れ」なくてはならないということです。なぜなら「いつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされる」からです。それはイスラエルとも同じです。

しかし「神は、彼らを再び接ぎ木することがおできになるのです。」から、神のいつくしみと

きびしさの両方に目を留めていきましょう。

同じように私たちも自分の救いで高ぶることなく、常にいつくしみの中に留まりつつ、安心して感謝して、主に喜んで従っていきましょう。イスラエルに対しても、まだまだ救われていない人々に対しても、パウロのような愛を持って祈り考えて、「何とか…救おうと願って」行動していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 火曜

ローマ

11:25 兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、

11:26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。

11:27 これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である」と書いてあるとおりです。

11:28 彼らは、福音に関して言えば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びに関して言えば、父祖たちのゆえに、神に愛されている者です。

11:29 神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。

11:30 あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けています。

11:31 それと同じように、彼らも今は、あなたがたの受けたあわれみのゆえに不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今あわれみを受けるためです。

11:32 神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです。

11:33 ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。

11:34 「だれが主の心を知っているのですか。だれが主の助言者になったのですか。



11:35 だれがまず主に与え、主から報いを受けるのですか。」

11:36 すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

神様はイスラエルに御自身を表しましたが、それは律法の行いでは救われないということを明かにするためにした。イスラエルは神から捨てられることによって、その働きをしたとも言えるのですが、それでは神様の愛が成り立ちません。

神様は「イスラエルはみな救われる」という民族的な救いを用意して、愛を実現なさることです。私たちにとっても同じ神様です。「神の賜物と召命は取り消されることがない」のです。クリスチャンは選ばれたものですから、その確かさを確信して感謝しましょう。

このイスラエルを霊的なイスラエルであるとして、クリスチャンを指すのだという解釈もありますが、パウロが同胞と言っていることからすると、無理な解釈です。イスラエルは歴史上のイスラエル民族です。だからこそ神は歴史を導くことができるのです。

「ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。」という通りです。私たちの人生においても神様のみわざを思って、主の驚くべき御計画に感謝しましょう。自分の人生に主の御手を見出して、そのご計画に沿って行く決断をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 水曜

ローマ



12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

12:2 この世と調子を合わせたいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきたいなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

12:3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。

12:4 一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、

12:5 大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとりは互いに器官なのです。

12:6 私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、

12:7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、

12:8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。

のですから…ということでしょう。このように揺るぎない神の絶大な力によって救われた私たちはどのように生きるべきでしょうか。その答えが「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。」ということです。

「生きたささげ物」というのは、犠牲の死ではなく、その生き方によってということです。人生をささげるということです。それはただ生きていれば良いというのではなく、「心を新たにすることで、自分を変えていただき」、「神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるように」なるのです。

そこでパウロは具体的な生き方について論じていきますが、何と最初に述べるのは教会での兄弟姉妹の交わり、それも関係性についてのことです。それこそが、救われた者の生き方の基本になってゆくからでしょう。

パウロは互いを尊重し合うことを命じていますが、それは単に気持ちの問題ではなく、現実のこととして論じています。すなわち「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っている」ということです。

ここにある7つの賜物は、その気になれば誰でもできることです。ですからこれらは能力ではなく、気質に関する事柄です。クリスチャンは誰もが違った観点、感性、動機、意見を持っているのです。この違いが不一致をもたらしめているように感じることもありますが、実はそうではなくこの違いが相補性であって協力の原点なのです。そうしてクリスチャン同志は一致するのです。

自分と違った観点、感性、動機、意見の人を批判せずに、尊重しましょう。さらに自分にはないものを見出して、賞賛し学びましょう。それを訓練として続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

「そういうわけですから」とは、このように神様の確かな御計画と、十字架の贖いによって救われた



2日 木曜

ローマ



12:9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れないようにしなさい。
12:10 兄弟愛をもって互いに愛し合い、互いに相手をすぐれた者として尊敬し合いなさい。
12:11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。
12:12 望みを抱いて喜び、苦難に耐え、ひたすら祈りなさい。
12:13 聖徒たちの必要をとともに満たし、努めて人をもてなしなさい。
12:14 あなたがたを迫害する者たちを祝福しなさい。祝福すべきであって、呪ってはいけません。

主イエスが言われたように、クリスチャンと言えども”世にあっては患難が”あります。ですから、世の人と同じような”生きにくさ”も感じるでしょう。そのようなときも、「聖い生きた備えもの」として歩んでいるなら、乗り越えることができます。「互いに相手をすぐれた者として尊敬」という考えは、人間関係を明るくものにします。「勤勉」な生き方は社会的な部分を好転させるでしょう。「迫害する者たちを祝福するなら」人間関係の勝利者になることができます。「神の怒り（12：19）」があるからです。

信仰によって、神のみことろと神の国の原理に沿って生きて、勝利を得ましょう。

①神のみことろは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 金曜

ローマ



12:15 喜んでいられる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。
12:16 互いに一つ心になり、思い上がることなく、むしろ身分の低い人たちと交わりなさい。自分を知恵のある者と考えるはいけません。
12:17 だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人が良いと思うことを行うように心がけなさい。
12:18 自分に関することについては、できる限り、すべての人と平和を保ちなさい。
12:19 愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。
12:20 次のようにも書かれています。「もしあなたの敵が飢えているなら食べさせ、渴いているなら飲ませよ。なぜなら、こうしてあなたは彼の頭上に燃える炭火を積むことになるからだ。」
12:21 悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣く」というが、愛する者のあり方です。人と同じように感じる事ができれば、その人を愛することになるでしょう。これは愛の目標でもあります。しかしまたこれは難しいことでもあります。おそらく人間の力や努力ではできないことで、聖霊によって初めてできることでしょう。「高ぶった思い」は、一つ心になる一致を壊します。自分の考えが最善と信じて、人の考えを受け入れなくなるからです。自分と違う意見によく耳を傾けましょう。誰でも人から悪を受けるときがあります。それに

対して同じものを返してやろうとは思わずに、逆に、善で報いてやろうと思うことができれば、その人は信仰の人です。私たちは神を介して交わっているからです。

どうしても相手が赦せないというときは、復讐してやりましょう。ただしそれを自分ではなく、「神の怒り」による復讐です。相手に良くしてあげることは、神様からの報いを大きくすることになるのです。神様が公正にさばいてくださるからです。もしも自分でやり返してしまったら、神様は「復讐」してくだされません。

どうしても自分で気の済むようにしたい人は、神様の復讐などいりませんと言いたくなるかもしれませんが。その場合、今度は相手が気の済むように反撃されますから、やっぱり自分ではやり返さない方が良いでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 4日 土曜

ローマ



13:1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。

13:2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます。

13:3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。

13:4 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。

13:5 ですから、怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも従うべきです。

13:6 同じ理由で、あなたがたは税金も納めるのです。彼らは神の公僕であり、その務めに専念しているのです。

13:7 すべての人に対して義務を果たしなさい。税金を納めるべき人には税金を納め、関税を納めるべき人には関税を納め、恐れるべき人を恐れ、敬うべき人を敬いなさい。

「上に立つ権威に従うべきです。」とありますから、法治国家では法律に従うべきです。ただし、国家が絶対かということではなく、あくまでも「神によって立てられている」という条件のもとで、それが成り立つのです。

ここではパウロはシンプルに、社会の秩序を守ることを勧めています。「善を行いなさい」とあります。法律を守り、税を納め、上に立つ権威を尊重す

ることは、証しの立つ生き方です。

社会や職場や学校を変えようとするなら、主の御心を聞いて、平和の神にふさわしいやり方を選ぶ必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 日曜

ローマ



13:8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。

13:9 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。

13:10 愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。

13:11 さらにあなたがたは、今がどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ているのです。私たちが信じたときよりも、今は救いがもっと私たちに近づいているのですから。

13:12 夜は深まり、昼は近づいて来ました。ですから私たちは、闇のわざを脱ぎ捨て、光の武具を身に着けようではありませんか。

13:13 遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活ではなく、昼らしい、品位のある生き方をしようではありませんか。

13:14 主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。

「何の借りもあってはいけません。」というのは、義務を残しておいてはならないということです。信仰ゆえに、または兄弟姉妹だからといって、義務を大目に見てもらいたがる人がいたからです。甘えを当たり前と思わないようにしましょう。

義務を残してはならないのですが、「互いに愛し合うことは別です。」とパウロは言います。愛があるゆえに、もっとしてあげたい思いで、自分の足り

なさを感じるからです。つまり愛は自ら進んで義務を負おうとします。その点においては、義務を感じることは良いのです。

愛は全ての律法を全うします。クリスチャンは“〇〇しなければならない”という発想ではなく、“〇〇をしてあげたい”という思いで行動するのです。

そのような生き方はイエス様の再臨があっても恐れることのない安心を与えます。イエス様の再臨、すなわち「眠りからさめるべき時刻」を覚えながら、イエス様の愛の原理で生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

